福井赤十字病院広報誌　第12号

ほわほわ

福井赤十字病院

理　　念　人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針　◎患者様の人権と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を遂行します。
◎医療の質の向上に努め、良質な医療を提供します。
◎地域医療機関との連携を推進し、一貫した医療の提供に努めます。

白内障～最新の白内障手術について～

眼内レンズ

眼科部長 小堀　朗

白内障とはそもそも、どんな疾患なのでしょう？

眼の中の水晶体（レンズ）が濁り、眼の奥に光が届きにくくなり、見えなくなる病気です。老化が最も大きな原因ですから、60歳頃から自覚し、歳とともに進行します。さらに強度近眼、糖尿病、外傷、アトピー、ぶどう膜炎、放射線、ステロイド剤なども進行する因子となります。

どうやって治療するのですか？

白内障の進行を遅らせるという薬はありますが、昔の薬のため、効果ははっきりしません。ですから、ある程度進行したら手術を行うことになります。

手術は角膜の周辺部に切開を入れて行います。昔は角膜の半周切開12㎜だったのですが、どんどん小さくなり、約3㎜の切開で行えるようになってきています。それに伴い、手術による乱視、異物感、重篤な感染も減少し、回復も早くなってきております。

手術図

次に超音波を用いて水晶体の濁った中身だけを取り除きます。超音波は水晶体を砕くのには有効なのですが、他の組織に対しては害になってしまいます。超音波チップを挿入する空間は3×9㎜の狭い場所であり、非常にデリケートな手術であると思って下さい。超音波手術器械はいろいろなメーカーのものがありますが、出力・間隔・圧力などをコンピューター制御して、より安全に手術ができるよう年々改良されております。そのことにより、眼内へのダメージがより少なく、重症な症例への対応も可能になってきております。

最後に人工レンズを挿入して手術を終えます。眼内レンズの直径は6㎜なので、同じ幅の切開が必要なのですが、最近は折り畳み式の眼内レンズが登場し、より小さな切開から挿入できるようになりました。

手術システムは施設により異なります。当院では最も小さな切開2.75㎜、最先端の超音波手術器械（INFINITI VISION SYSTEM）、最小切開で挿入できる眼内レンズを用いて年間約1100件（北陸最大規模）の白内障手術を行っております。

超音波手術器械

手術のタイミングは？

患者さんによって異なりますが、視力が眼鏡をかけても0.7に満たないなら手術を考えてもらいます。あまりに白内障が進んでしまうと手術が難しくなったり、眼底が検査できないために緑内障や眼底疾患があっても見つけられず手遅れになることがあるからです。やはり白内障も病気ですので、早からず遅からずの手術治療が大事です。

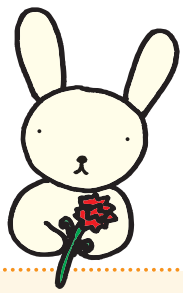
特集 第5回QCサークル発表会

看護部　大崎　妙子

平成12年看護部は、看護の質の保証と改善、職場の活性化を考え、QC活動（Quality Control＝品質管理の手段方法）を導入しました。平成15年病院は、病院機能評価受審を機会に、病院全体でQC活動に取り組むこととなりました。

平成17年2月19日（土）、第5回QC発表会が行われました。今年は新棟に移転し“新病院を自分たちで働きやすい職場にリニューアルしましょう”と呼びかけ、19サークルが発表しました。サークルは各職種混成が3、検査室1、看護部15でした。

発表会は楽しく、参加者からも“身近な問題で興味深い”“問題を正確に捉えてあった”“PowerPointが工夫され効果的だった”“寸劇混じりでよく伝わった”“今後働きやすくするための足がかりができた”などよい感想をいただきました。又、今後に向けて“看護部門以外の発表が少ない”“もっと意見交換を活発にしたい”などの意見もいただきました。院長は“各職場の皆さんが頑張っている事を評価します”と話され、事務部長は“日常業務の問題を経験と度胸で解決することもあるが、今後はデーターを基に解析と解決をしてゆく必要がある”と話されました。



盛況のうちに終わったQC発表会でした。最後に今年度の入賞サークルを紹介します。

金賞　**シーツ交換の効率化を図る**　看護師長係長会「シーツ交換サッサ隊出動」

銀賞　**絶食の必要な患者様が確実に絶食できる**　1-6病棟「Safety Fresh」

銅賞　**A勤看護師の時間外勤務を削減する**　1-4病棟「おうちへ帰ろう」

部門紹介 リハビリテーション科より

リハビリテーション科は、身体に障害を持たれた患者様・障害者の方々に専門職（当院ではリハビリテーション専門医）が指導監督を行う下で、理学療法士（PT）作業療法士（OT）言語聴覚士（ST）マッサージ師が協同して医療サービスを行うところです。対象となる障害は、事故による骨折・頭部外傷・脳血管障害・神経筋障害・呼吸器疾患・糖尿病など多岐にわたりその治療を提供しています。最近では病診連携の一環として地域のリハビリテーション施設をもたれている病院へもご紹介できるように準備致しております。

また、回復期リハビリテーション病棟では専従のPT・OTが病棟専従医・看護職員と一緒になって治療に従事していて、急性期の治療から家庭生活へのスムーズな退院が出来ますように援助しています。

最近のトピックスとしては、リハビリ専門医の資格を持つ医師が赴任され、総合リハビリテーション承認施設としてリハビリサービスを提供出来る環境が整いました。住民の皆様に急性期におけるリハビリを提供させて戴き、慢性期に入られた患者様は地域の連携病院で継続リハビリを受けて戴くことができますように支援体制の強化がなされております。

当院リハビリテーション科では患者様と職員が一緒に協力し合って機能回復に励まれますよう支援させていただきますのでお気軽にご相談下さい。

ストレス心療科より

当科は昨年4月から常勤となり、おかげさまで1年間何とか乗り切ることができました。深く皆様に感謝いたします。この4月より「ストレス心療科」と標榜を変更しました。次の3つの理由からです。

1 当科では心身症やパニック障害、軽度うつ病などストレス関連精神疾患の患者様の受診がほとんどであること

2 まだまだ「精神科」の敷居が高いため、精神科受診に抵抗のある方が多くうつ病の早期治療が遅れる恐れがあること

3 無床の外来診療のみという治療環境であるため、いわゆる幻覚妄想など急性期の精神病状態の患者様には十分な対応ができないこと

さてこの4月からのストレス心療科スタッフを紹介します。

精神科医　山田淳二

精神科医10年目、日赤2年目突入。心優しい職員さんから「一人で大変ですね」の言葉に涙することがあります。かつては屈強なテニスプレーヤーでしたが今は体力が低下し、見る影もありません。休日や夜間、携帯電話が50センチ以内にないと不安を感じるのは完全に病気です。風呂上がりに日赤からの着信歴がないのを確認するとかなり幸せな気分になるのも異常です。まだ抗うつ剤は飲んでいませんが、5年前に発症した糖尿病は悪化する一方です。（夏井先生にしばしば相談させて頂いております）

看護師　佐々木佐智江

隣のブースの神経内科外来から特攻隊員のように飛んできてくれました。恐れを知らない性格の持ち主のようです。（言い換えると積極的な方のようです）。前任者の大川さんが泌尿器科外来へ異動されましたが、大川さんが丹念に耕し、こまやかに蒔いて下さった種を佐々木さんが開花させてくれると信じています。身体科のようにすっきりとはいかないのが精神医療の現実です。3ヶ月から半年は「やせる思い」をすると思います。しかし、いずれは外来患者さんの看護サポートだけでなく、病棟スタッフの燃え尽き防止や院内職員のメンタルケアーにも積極的に関与して頂くつもりです。

心理判定員　寺井堅祐

この4月から寺井君が加入し、我々は3人のスタッフになりました。恒例ですので輝かしい御略歴を紹介させていただきます

H10年に福井大学心理学科を卒業後、福井大学教育学研究科修士課程、金沢大学大学院博士課程にて研究活動を継続されてきました。

H8年の大学在学中より福井高専の相談室非常勤カウンセラー、県精神保健福祉センター非常勤相談員など中学生、大学生、老人、主婦など幅広い年齢層の方への精神保健活動に10年に渡り貢献されました。研究面では福井大学を卒業後、金沢大学大学院にて主にストレス、リラクゼーションについて、自律神経、呼吸機能などをテーマに生理学的研究を続けてきました。現在は福井大学医学部認知機能グループ（村田哲人助教授ら）との共同研究を継続中です。県立すこやかシルバー病院や福井大学病院での非常勤業務では、いわゆる高次脳機能の判定に従事されました。いうまでもなく高齢者では認知症（痴呆症）の早期診断、判定と薬物療法開始のタイミングが昨今の老年精神医学のトピックです。薬物効果判定と病態把握のための神経心理検査（特に前頭葉機能、記憶の検査）は必要不可欠です。リハビリ科、脳外科、神経内科など他科のスタッフの方にも患者様の高次脳機能（記憶、失語、失行）などの評価につき助言できると思います。

以上3人のスタッフで日赤の精神医療の黎明期を乗り切っていきたいと思います。我々は和食専門店でも洋食専門店でもなく、老舗でもなく、方向性はこれから徐々にうちだしていくつもりです。院内院外の皆様には何かとご迷惑をかけることもあるかと存じますがよろしく御願い致します。

山田　淳二

行事予定

●家庭看護法介助員養成講習

日　時：5月19日（木）・20日（金）・21日（土）・22日（日）
　　9：00～15：30
会　場：日本赤十字社福井県支部
教材費：1,000円

●救急法救急員養成講習

日　時：5月16日（月）・17日（火）・18日（水）
　　9：00～17：00
会　場：日本赤十字社福井県支部
教材費：3,000円

申し込み先：日本赤十字社福井県支部　TEL.0776-36-3640　FAX.0776-34-6299

Topics トピックス

2・3月の病院の行事

内覧会開催

旧本館の4階にあった福井県立福井東養護学校月見分校の校舎が、病棟の改築工事に伴い管理棟の2階に移転しました。

3月27日（日）に開催された内覧会には多くの方が来場し、新しくなった校舎を見学されました。

平成17年度からは高等部も設置され、より多くの生徒さん達がここで学ばれます。

福井赤十字病院本館等増改築工事

平成12年6月に着工した「福井赤十字病院本館等増改築工事」も、平成13年3月にエネルギー棟竣工、平成15年12月に新本館竣工、そして本年2月には3・5病棟等改修工事が完了し、残すのは旧本館・6・7病棟解体工事と駐車場整備等の外構工事のみとなりました。

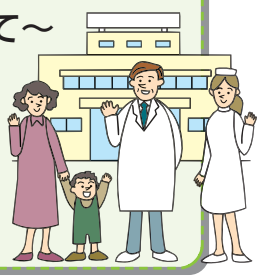
旧本館（鉄筋コンクリート造5階建、塔屋2階　延べ面積10,219m²）は昭和44年3月竣工の建物で、新本館にバトンタッチするまでの35年もの間中心建物として機能し、当院の「顔」でありましたが、長年の使命を終え解体されることになりました。4月より内装解体が始まり、7月頃から上屋解体に取り掛かり、解体跡地は外来駐車場になります。

いろいろな思い出がある方もおられるでしょう。解体前にねぎらいの言葉を掛けてあげてください。

第5回　赤十字月間・看護週間記念行事

メインテーマ　赤十字・あなたのまちの保健室　～災害にそなえて～

期間　平成17年5月12日（木）～13日（金）
時間　7：45～16：00（5月12日）
　　9：00～16：00（5月13日）
場所　福井赤十字病院　中央ホール・各外来



編集後記

春半ばに差し掛かったとはいえまだまだ肌寒い日があり、寒暖の差も激しいので体調の管理には十分お気を付け下さい。とはいえ、そのおかげで例年より桜の季節が遅くまだ山中では桜が楽しめる場所もあるので、春の陽気につられて散策してみるのもいいのではないでしょうか。

（広報医員　H．I）

「ほわほわ」第12号
2005.4発行　広報委員会

〒918-8501福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630（代）FAX.0776-36-4133
URL:http://www.fukui-med.jrc.or.jp/
E-mail:webmaster@fukui-med.jrc.or.jp

★ご意見・ご感想は広報委員会事務局（総務課）まで